

## 報道機関と生産者が意見交換 パブリシティ強化を図ります



パブリシティを強化するために1月29日、地元メディアとの交流会を北宮農センターで開きました。冬から春にかけて旬を迎えている「水田ごぼう」「イチゴ」「スナップエンドウ」「カスミソウ」の部会長や生産者、作物担当職員が作物の特徴や栽培について説明。試食をしてもらいながら意見交換を行いました。

熊日新聞、日本農業新聞、地元テレビ局の記者や菊池市広報担当者が訪れ、熱心に話を聞き「農家から直接話を聞ける貴重な機会となった」「試食することでそれぞれの作物の魅力をより感じる事ができた」と感想を述べていました。

東哲哉組合長は「農家の声を直接届けることにより、生産物への思いを感じてもらえたと思う。高い発信力を持つ報道機関の皆さんと協力し、地域農業発展のために食や農に関する情報を発信していきたい」と話しました。

※パブリシティとは、マスコミに情報提供を行い、メディアを通じてニュースとして報道してもらう広報活動です。JA菊池の農畜産物を今まで以上にアピールしていくために、令和7年度はこのような会を季節ごとに開催予定です。

## JA菊池広報委員会 “伝える”から“伝わる”広報へ

組合長をトップにJA菊池広報担当職員で構成する広報委員会を1月29日、パシオンで開きました。令和6年度広報活動報告と令和7年度広報活動計画について協議しました。東組合長が「広報委員からの情報提供で充実した広報活動ができている。伝わる広報に一層力を入れてほしい」とあいさつ。参加者は「組合員にわかりやすく、楽しいと思ってもらえる情報発信ができるよう努力したい」と話しました。

※広報委員会は年2回行い、広報の強化につなげています。職員一人ひとりが広報マンという意識で、組合員や地域住民への情報発信に力を入れてまいります。



## きくちのまんま食農祭 『国消国産』の大切さをPR



「きくちのまんま食農祭」を2月1日、きくちのまんま菊陽店で開きました。『国消国産』の大切さを伝えたいと、菊池地域の農畜産物の販売をしながら訴えました。「まんまキッチン」の美味しい精肉もPR。今回で14回目となり、約400人の来場がありました。商品券などが当たるガラポン抽選会も行い家族連れでにぎわいました。今後もイベントなどを通じて地域を盛り上げ、農業・農協への理解醸成につなげていきたいと思ひます。